

一期一会

自律 目標に向かって自分自身を律する
感謝 思いやりや感謝の気持ちをもつ
貢献 将来社会に貢献する態度を養う

2021.9.2 第18号



夏休みが明けて一週間がたちました。当初は欠席も目立ちましたが、徐々に学校生活に慣れつつあるようです。

雨続きで天候不順が続きましたが、一転、残暑厳しい日が続いています。幸い、教室にクーラーが設置されたので比較的快適に授業が進んでいるようです。心配なのは新型コロナウイルス感染症の影響です。変異株が猛威をふるい予断を許さない状況が続いています。西諸地区内でもクラスターが発生し、小林市内中学校も部活動停止になりました。感染力が強いので今まで以上の予防が必要になってきています。安心安全を第一に対応していきますので、ご理解とご協力をよろしくお願いします。

「弁当の日」

6日(月)は「弁当の日」です。

「弁当の日」は、香川県の元小中学校長で、今は全国で講演活動をされている竹下和男さんが提唱し、全国に広める活動をしています。

「弁当の日」は、食の大切さに気付いてもらおうとする食育活動の一環で、献立、買い出し、調理、弁当箱詰め、そのすべてを子どもたちが行う日です。

この「弁当の日」の実践校は、今では全国で約1900校に上るそうです。

お弁当にちなんでの思い出話がありましたので紹介します。

高校時代、同じ部活動をしているWという友人がいました。彼は昼休みの時間に菓子パンを食べていることが多かった気がします。昼に姿が見えなくなることもありました。

ある日の昼休み、私が何かの用事で部室に行くと鍵が開いていました。中を覗くと、Wがひざを折り曲げてぼーっと座っていました。

Wの家は貧しく、お弁当を作ってくれる母親もいませんでした。私は毎日お弁当を食べられることを当たり前だと思っていた自分の傲慢さに気付きました。

私の妹の結婚式で読み上げられた、両親への感謝の手紙の一部です。

「恥ずかしい話ですが、私は会社に持っていくお弁当をお母さんに作ってもらっていました。『マンネリでごめんね』といつもお母さんは言っていたけど、お母さんのお弁当の味は一生忘れません」

妹の涙声に私も思わず涙が出そうでした。母を見ると、意外にも母は毅然と立ち、じっと妹を見つめていました。その姿がなんだかかっこよく見えました。一方、母の隣にいた父は立っているのもやっとなくらい号泣していて、とても恥ずかしかったです。



建設現場の車からお弁当が盗まれたことがあります。当時50代後半だったMさんがその被害に遭いました。

Mさんには悪いですが、財布を盗まれるのと違って、お弁当を盗まれるというのはちょっと滑稽な感じがします。Mさんもみんなと一緒に笑っていましたが、少し落ち込んでいるようにも見えました。

その日の夜。

「弁当箱だけでも返ってこないかな。実はこの会社に再就職が決まった時、娘が買ってくれたものだったんですよ」

みんな帰った静かな事務所で、Mさんはそう言って悲しそうに微笑みました。

「弁当」は、今では“bento”と英語にもなっています。“lunchbox”とは違うと知り合いのアメリカ人が言っていました。お弁当には愛が詰まっているからだそうです。

すべてはつながっている

(株)サンヨネ代表取締役社長 三浦 和雄

日本は「長寿国」と言われますよね。でも、男性も女性も平均寿命の10年くらい前から半数の人が寝たきりや要介護になります。デンマークの友人に聞いたところ、デンマークに寝たきりの人はいないそうです。

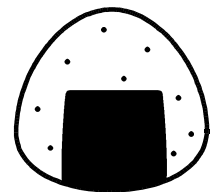
ニュージーランド北島東海岸はネイピア市、ヘイスティングス市という都市があり、22万人の人口ですが、総合病院はなんと一つしかありませんでした。10年前の話です。

診察も手術も順番待ちです。だからみんな自分で健康を維持する工夫をしていて、朝5時からジムは超満員、スーパーも朝6時から開いていました。「だからみんな健康なんだろうな」と思いました。

日本は医療費も膨大です。ある方が言っていました。「ある大手コンビニのおにぎりは全アイテムでカウントすると合成保存料が85種類くらい使われている」と。お弁当には150種類以上の添加物が入っているそうです。

私はこの添加物問題にも心を痛めています。

現在日本の多くのメーカーが当たり前のように食品添加物を入れていますが、この添加物が健康に及ぼす影響は小さくないと私は考えているのです。



37年くらい前は多くの業者が添加物問題に取り組んでいました。しかし、今は厳しい価格競争で安さばかりが求められ、メーカーや生産者は添加物を使って安さを維持するしかないのです。

その結果、我々の健康は人間がつくりだした合成化学物質によって蝕まれています。このことも国の莫大な医療費の要因の一つだと私は考えています。

「すべてつながっている」ということに、私たちは早く気づかなければいけないのです。